

平成29年度 磐田市立磐田第一中学校 学校評価書

		目標・取組	評価指標	自己評価	考察や改善点等	学校関係者評価委員より
「未来を拓く力をもつ生徒を育てる」教育活動の推進		○社会で自立的に生きるために必要な資質・能力を育む学校づくり ○保護者や地域・社会に開かれた教育課程を通し、信頼される学校づくり	1 学校教育目標「未来を拓く力をもつ生徒を育てる」を意識して教育活動に取り組んでいる。(教師)	A	分析の数値は左からH28,1学期→H28,2学期→H29,2学期 項目4 目指す子どもの姿や教育方針の理解 分析 保護者 88%→87%→88% 多くの保護者の方が学校で目指している子どもの姿や教育方針について知っているという回答している。ホームページや学校・学年・学級だよりを通して学校からの情報を保護者の方が確実に受け止めてくださっている。 項目5・6・7 小中一貫教育を生かした研修や内容理解 分析 教師 60%→79%→57% 生徒 89%→83%→90% 保護者 85%→89%→90% 多くの生徒が小中の交流のよさを感じており小中一貫教育に対する保護者の理解も高い。しかし、教師が小学校の研修内容を理解し、中学校での指導に生かされていらないため、合同授業研修会の充実を図りたい。	・小中一貫教育を生かした研修や内容理解では、生徒・保護者に比べて教師の評価が低いが、どのような対策を考えているのか。 ・小学校の授業や子どもの活動の様子を参観する機会を教育課程に位置づける。
			2 一中では、生徒が自己の生き方や進路について、保護者とじっくり話し合う機会をもつよう働きかけている。(教師)	A		
			3 将来の進路について、家庭で話し合っている。(保護者)	A		
			4 学校で目指そうとしている子どもの姿や教育方針について知っている。(保護者)	A		
			5 小学校の研修内容を知り、小学校の授業づくりから学んでいます。<小中一貫>(教師)	B		
			6 中部小や西小の先生や児童と交流することのよさを感じている。<小中一貫>(生徒)	A		
			7 小中一貫教育で取り組んでいる内容を知っている。(保護者)	A		
矜持 達成感 「健やかな心身と確かな学力」	○授業・部活動に主体的に取り組む一中生 ・課題(目標・夢)に向かって粘り強く取り組む一中生 ☆ALの手法をいかした授業実践(授業研究・研修) ☆自主性、主体性を重んじた部活動(目標の設定や練習方法の決定等、生徒が主体の部活動の推進) ☆進路指導の充実	8 授業や部活動に主体的に取り組む生徒を育てるよう指導している<矜持>(教師)	A	項目9・10 「確かな学力」が身に付く授業の実践 分析 教師9 97%→97%→92% 教師10 75%→64%→62% 学習の基本3項目や授業三感を意識した授業、「学びのびき」を活用したガイダンス機能の充実に関して数値が下がっている。学習指導部を中心に再度共通理解を図るとともに教師一人一人が目的意識を持った授業改善に努める必要がある。 項目13・14・15 きめ細かな指導・支援 分析 教師 75%→82%→81% 生徒 96%→95%→96% 保護者 79%→84%→82% 個に応じた決め細かな指導について、「分かりやすく教えてくれる」と感じている生徒は多い。これからも継続して教師が個に応じたきめ細かな指導に努めることで、分かりやすい授業を目指していきたい。また、きめ細かな指導が子どもの姿で保護者に実感されるような取り組みを進めていきたい。	・多くの項目で高い評価を得ているのが素晴らしい。このまま継続して教育活動を行ってほしい。	
		9 学習の基本3項目(2分前着席、授業に集中、予習・復習)と授業三感(共感、存在感、達成感)を意識して、「確かな学力」が身に付く授業を実践している。(教師)	A			
		10 学びのびきを活用し、ガイダンス機能を充実させることができた。(教師)	B			
		11 「ベーシックスタディ(基礎学力定着のための補充的な学習の時間)で基礎的な学力が身に付くよう指導している。(教師)	A			
		12 今学期のベーシックテストにすべて合格できている。(生徒)	A			
		13 個に応じたきめ細かな支援・指導ができています。(教師)	A			
		14 先生は分かりやすく教えてくれる。(生徒)	A			
		15 教師は、個々の子どもによく分かるように工夫して勉強を教えている。(保護者)	A			

側 隠	・ 側隠 「人間らしさ」の希求 ・ 共感 「豊かな共生の心」	○気持ちのよいあいさつができる一 中生 ・ 感謝の気持ちが 言える一中生（あ りがとう） ☆常に教師が、率 先してあいさつ、 返事、感謝の言葉 を言う。 ☆道徳の時間の充 実（時間設定、資 料・授業案の共有 化、授業研究・評 価研修等の実施）	16	気持ちのよいあいさつができる生徒を育てるよう指導をしている<側隠>（教師）	A	項目17・18・19「あいさつ」 分析 教師 82%→73%→71% 生徒 91%→93%→93% 保護者 84%→84%→86% 生徒の評価は高い数値である。一方で教師の評価は70%台と低くなっている。保護者の評価の中にも「あいさつされたらするようです」や「あいさつの声小さい」などの意見も見られた。生徒会や生活部を中心にあいさつに対する意識の向上を図る取り組みを進めたい。また、教師や保護者の側からあいさつをするとともに、一言プラスすることで、より良い人間関係を築くことができるようにしたい。 項目23 生徒理解 生徒 90%→88%→91% 「先生は自分のことを分かってくれている」と感じている生徒が90%を超えている。学校全体で一人一人の生徒を温かく見守っている成果である。指導部長を中心に学級担任、教科担任、部活動顧問、養護教諭、教育支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが連携し、組織的に動いて生徒理解に努めた結果である。これからも、生徒一人一人の心に深く寄り添った指導ができるよう意識を高めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子どもたちは、気持ちのよいあいさつをしてくれる。 ・ あいさつの生徒の評価が高いことは素晴らしい。 ・ 教師からあいさつすることも大切だが、生徒自らあいさつをすること、大きな声が気持ちのよいあいさつにつながることを生徒に伝えていってほしい。 ・ 家庭でのあいさつも大切にしたい。 ・ あいさつは慣れることが大切であり、社会にでて必要なものである。
			17	子どもは、進んで気持ちのよいあいさつをしている。（教師）	B		
			18	進んで気持ちのよいあいさつをしている。（生徒）	A		
			19	子どもは、進んで気持ちのよいあいさつをしている。（保護者）	A		
			20	子どもたちは、相手の気持ちを考えた、あたたかな言葉づかいをしている。（教師）	A		
			21	相手の気持ちを考えた、あたたかな言葉づかいをしている。（生徒）	A		
			22	子どもは、相手の気持ちを考えた、あたたかな言葉づかいをしている。（保護者）	A		
			23	先生は、自分のことを分かってくれている。（生徒）	A		
堂 々	・ 堂々 「一中之らしさ」の創出 ・ 存在感 「新たな一中之文化創出の担い手意識」	○行事やボランティアに意欲的に取り組む一 中生 ・ 校歌を大きな声 で堂々と歌う一 中生 ☆生徒会を中心に 生徒が主体、生徒 が前面に出るよ う、行事やVSの 企画を任せる。 （そのための時間 の設定や教師がつ く時間の確保。生 徒活動の場では、 教師が前面に出 ない。）	24	行事やボランティアに意欲的に取り組む生徒を育てるよう指導をしている<堂々>（教師）	A	項目25・26 学級の中での役割 分析 教師 97%→94%→100% 生徒 95%→96%→97% 教師、生徒とも、100%に近い評価である。学級内に自分の役割があり、その役割を果たしていると自覚できることは、集団の中での存在感につながる。生徒の役割を果たした場面で、教師が積極的に「ありがとう」の声かけをし、生徒を認め励ましていきたい。 項目27・28・29 歌声 分析 教師 97%→94%→94% 生徒 85%→82%→83% 保護者 78%→90%→90% 教師、保護者の評価は高い。それに対して生徒の評価はやや低い。「合唱コンクール」での各学級の歌声は素晴らしいものがある。これからも帰りの会で歌ったり、校歌を歌ったりする機会に「大きな声で楽しんで歌う」という雰囲気をつくり、明るい歌声が響く学校にしていきたい。 項目30・31・32 部活動 分析 教師 97%→97%→92% 生徒 96%→95%→98% 保護者 86%→90%→97% 生徒、教師、保護者とも90%を超える高い評価である。磐周大会前は部長会長が放送で呼び掛けをし、学校全体が部活動に集中する雰囲気を高めた。2年生が中心となった2学期以降も短時間の中で部活動に集中して取り組む姿が全ての部活で見られた。これからも生徒主体の部活動を目指したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級、歌声、部活動では、生徒、保護者、教師の評価がとても高く、生徒の成長を大きく感じる。今後も地域とともに、子どもを健やかに育ててほしい。
			25	子どもは、学級の中で、自分の役割を果たしている。（教師）	A		
			26	学級の中で、自分の役割をしっかりと果たしている。（生徒）	A		
			27	子どもたちは、進んで声を出し、歌うこと（合唱）を楽しんでいる。（教師）	A		
			28	朝の会や集会、帰りの会などで、自分から声を出し楽しんで歌っている。（生徒）	A		
			29	子どもは、進んで声を出し、歌うこと（合唱）を楽しんでいる。（保護者）	A		
			30	部活動では、子どもたちが集中して取り組んでいる。（教師）	A		
			31	部活動に集中して取り組んでいる。（生徒）	A		
32	部活動に集中して取り組んでいる。（保護者）	A					

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）からは、学校評価において多くの項目で高い評価を得ていることから、「学校の教育活動を通しての子どもの成長を十分に感じる」「本年度の学校の取り組みに満足している」などの肯定的な意見をいただいた。来年度も学校と保護者、地域のつながりを大切にするとともに、小学校と中学校のつながりもより一層深めていくことで、子ども一人一人の可能性を大きく広げる教育活動をすすめたい。そして、学校教育目標「未来を拓く力をもつ生徒を育てる」の達成を目指していきたい。